

福祉のかけ橋

迎春

旧年中はいろいろとお世話になりました
本年もよろしくお願い申し上げます

昭和六十三年元旦



地区社協会長	山崎乙次郎	母子カ福祉会長	山本綾子
自治振興会長	須川利夫	老人クラブ会長	須川利夫
町議会議員	前川 衛	遺族会支部長	高橋武蔵
〃	滝田栄三	身障協会代表	長田為二
教育委員	山本太作	傷疾軍人会長	須川利夫
公民館長	亀田新三郎	児童育成会長	須川俊行
町内会長代表	亀田信一	母親クラブ会長	林 律子
青年団長	朝倉 毅	V院グループ長	武田十四子
婦人会長	倉島悦子		

新年を迎えて

南山見地区社長

会長 山崎乙次郎

あけましておめでとうござい
います。今年も良い年であ
るようお祈り申し上げます。
昨年発足した南山見地区社
校は比留村の温かいご理解と
協力のおかげで感謝すると共
に厚くお礼申し上げます。
また暮々頃、地区社校会費の
ついで、事業なうかに趣旨を
心よくご理解下されて、ご納
入たまわったこと心からお礼
申し上げます。

今やわが国も経済大国として発
展しているその中で世界の
長寿国ともなりました。これは
喜ばしいことであります。そう
した中にも、白の当らない暮暮の
人もあろうかと思っております。ご
この事業推進の重要目標を
老人問題をばいり身障者、母

子力婦福祉や児童福祉関係
などの諸問題として行政と共
に早期解決にあたりたいと思
います。地域の福祉は地区か
ら」を目標として、地区の行事
運動などを通して、ふれあいの
場を設け、共にボランティア活動
を推進して、夢いっぱい、村おこ
し、地域づくりが肝要かと思つて
おります。

当会もこのした事を念頭におき
地域福祉活動のそとしてボラ
ンティア活動への微力ながら心
を、そとご辰歳々ふさわしい
一年になるよう最善を尽し
たいと思つております。ので
ご支援をお願いいたします。

思ひや
りさわ
やか



あなたも
何かができる

地域の福祉を考ふる
勉強会へご参加下さい

会場 南山見公民館

① 一月十二日午後七時三十分
福祉は真実の心から
講師 町教委 武種晃先生

② 一月十三日午後七時三十分
ボランティアってなん?
講師 富山県社校
福祉課長 小平健二氏

皆さんへの聴講をお待ちして
おります。

幸福って何だろう

ひとり暮らしてのおはあぢやんは
家庭奉仕員さんと食事する
のが楽しいそうです。
茶碗のわねあう音、箸の音、漬
物をかむ音、など、すいこ、多
せいの家族に囲まれて、昔、食
事した、なうかい温もりが思
ひでるからおそうです。

地区社協のめざすもの
在宅福祉サービース

地域住民相互のたすけあい活動は地域のニーズに密着したもので福祉の温かい思いやりのあるものでなければならぬと思ひます。さうして公的福祉制度も研究し高度活用を計ることが重要です。

これに併せて地域を護る福祉サービースボランティアの欠くことのできる重なる役割を担つていさすのでこの養成に努めたと思ひます。

こうした、事情、向題など把握しながら福祉事業をより身近なところを支え合うのが地区社協の目的であり、これからの課題をすまう日たりともよろそがいの出来ないと考へていさす。

現在設立早々にして万端ふり

きとどきなことはありあらずか老人と子供も障害者、母子と言わず皆が話しあひ助けあひである福祉社会になければならぬと思ひます。どうもしよう病人を介護してゐるとき家を定けることができぬと思ひます。人へなるとき気軽に助けを求めらるるボランティアが在つたらうんぬん安心して請用をすませることができると思ひます。

地区社協はこれでも安心して暮らせる条件整備をきとどきと豊かに暮らせるよう努めておろします。

- 地区社協の運営に
とり委役員さんたち
- 会長 山崎 乙次郎 川岸 崎
 - 副会長 沢田 久夫 沖
 - 常任委員 前川 正 矢 院 福見
 - 委員 (在所略)

- 田村 玉喜、林 外吉、小橋 松子
- 吉田 とも、山本 みよ、山本 綾子
- 高橋 武蔵、亀田 信一、須川 俊行
- 林 律子、倉島 悦子、朝倉 敏
- 岩崎 保子、高倉 トシ、高島 清子
- 小坂 昌江

- 監事 箭原 幸吉、井上 幸子
- 事務局 事務局長 (常任委員)
- 庶務 武田 十四子 院 福見
- 会計 林 みづ子 東 城寺

- 須川 利夫 (東) 自治振興会長
- 前川 衛 (院) 町 議
- 滝田 栄三 (谷) 町 議
- 亀田 新三郎 (谷) 公民館長
- 亀田 信一 (青) 町 役 会長 代表

役員 の 任期 (三年)

自昭和六十二年四月一日

至昭和六十四年三月三十一日

但し補充役員 の 任期 は 前任者 の 残任 期間 中 です。

事務所 南山 恩 公民館 内

昔き知つていゝ 志観寺の龍頭観音地藏

古かう栄えた志観寺村は瑞泉寺神如の勧進帳にもみられるあたり由緒深いのが多秘められているかと思ひます。それでこの村に古リノミとを残す龍頭観音地藏があるとなつて訪ねて見ますと



観音様は、顔さや右にむけほほ笑を感ずるふくまかな座像でした。像は非常の月化していますかよく見ると龍のお乘りにあつたお姿で顔の辺りに洞があり膝下に龍の顔が見える立派なものでした。

皆さんも一なお参りされませんか。うお知れませす。

井波町史一五六頁
なほ「越中志微」の
志観寺観音堂の

項に「正徳二年社堂書上帳に志観寺村観音と載せたり。是止観寺の遣仏なるべし」と記しているが、この観音に つりては今明らかでない。とありませう。

志観寺観音堂には、どうもうな観音さまがまつられていたのか興味深い。

(二筋川)

本紙と地域のかげ橋として育みたいと思つていませう。皆さんがご意見をお寄せ下さい。

第二号

発行 昭和三十三年一月一日
事務所 南山見公民館
井波町川原崎一五五
八三二一五七七六番
発行責任 南山見地区社長